

作文部門 中学生の部

ジャガイモ入り焼きそばと私

小山市立大谷北小学校 六年 島田 彩

私は、ジャガイモ入り焼きそばが大好きです。

毎週土曜日の夕食のこん立は、ジャガイモ入り焼きそばと決めています。こんなにおいしいジャガイモ入り焼きそばをたくさんの人に食べてもらいたいです。

私が初めてジャガイモ入り焼きそばを食べたのは、五才のころでした。初めて食べたときは、ジャガイモと肉、キャベツに混じり合った焼きそばが、とてもおいしかったのを覚えています。その後、私は、この焼きそばが好きになりました。小学生になって、インターネットで調べていると、

ジャガイモ入り焼きそばは、栃木市や足利市など栃木県の南部でしか食べていないと知りました。

私のおばあちゃんは、栃木市に住んでいます。おばあちゃんが私に作ってくれた焼きそばがジャガイモ入り焼きそばでした。栃木市では昔から焼きそばにはジャガイモが入っていたそうです。焼きそばは、全国どこでもジャガイモが入っていると思っていたので、とてもびっくりしました。

私は、おばあちゃんにおいしくジャガイモ入り焼きそばを作る方法を聞いてみました。最初にめんをレンジで一分間加熱してから、そばを焼きます。ジャガイモは、あまりやわらかくゆでないように気をつけます。やわらかすぎるとジャガイモの形がなくなってしまいます。だから、ジャガイモの形が残るように作っていくと良いそうです。

また、キャベツも大きめに切ります。ボリューム感を出すのが大事だとおばあちゃんは話していました。

ジャガイモ入り焼きそばが生まれたのは、戦時中だと聞きました。食料が不足している時代に、ジャガイモを使ってボリューム感を出したそうです。食料不足の戦時中に、栃木の人たちが工夫して作ったのが、このジャガイモ入り焼きそばだったのです。きつとたくさんのお腹をすかせた子ども達を助けたのがジャガイモ入り焼きそばだったのかなと思いました。

ジャガイモ入り焼きそばは、とても人気があります。わたしのおばあちゃんの家の近くの焼きそば店には、週末になるとたくさんの人が並んで行列になるそうです。栃木市には、ジャガイモ入り

焼きそば店のマップもあります。たくさんの観光客の人たちが焼きそばを食べに来ていると聞きました。私の住む栃木県には、たくさんのおいしい食べ物があります。その中でもジャガイモ入り焼きそばは、人気のある食べ物です。

もつともつとたくさんの人に、ジャガイモ入り焼きそばを食べてほしいです。そのために、私もおいしいジャガイモ入り焼きそばが作れるようにしたいです。そして、みんなが食べたくなる焼きそばを考え、しょうかいしてみたいです。私達の住む栃木県のおいしい味をたくさんの人に知ってもらい、食べてもらいたいです。

伝統が生きている烏山和紙

那須烏山市立江川小学校 六年 堀江 航生

ぼくの世界でたった二枚のオリジナルはがき
ができた。ぼくの自信作だ。約一時間、本当に
集中して、はがき作りを体験したよ。あとは、
かんそうさせて家にとどくのを待つんだ。楽し
みだな。

「お母さん、ぼくの自信作のはがきが家にとど
いたよ。さわった感じが、今まで見てきた紙と
は全くちがうんだ。厚みがあつておもしろいん
だ。」

栃木県子ども観光大使に応ぼして、十一月に
和紙の里までやってきました。

ぼくの家は、那須烏山市の中でも、さくら市
に近い場所にあります。和紙の里も同じ市内に

ありますが、茂木町に近いので、ぼくの家から車
で三十分くらいかかりました。車の中から外をな
がめていて、那須烏山市はすごく広くて、自然が
いっぱいなんだなと感じました。

建物の中は、三十人の子ども観光大使と、お父
さん、お母さんであふれています。そこに、和紙
で作った照明がぼくたちをむかえてくれました。

指導してくれる福田先生が和紙のひみつを教え
てくれました。県内のほとんどの学校の卒業証書
が伝統の技・烏山和紙でできていて校章のマーク
もうき出ています。和紙はぼくの生まれた那須烏
山市の自慢です。

今から一三〇〇年前に作られ始めた和紙は那須
烏山市で毎年開さいされる「山あげ祭り」の山車
に、いっぱい使われています。この祭りは、国の

重要無形文化財に指定されました。

本当に長い歴史をもつ烏山和紙。なるほどなるほどとぼくたち以外にもお父さんやお母さんたちがうなずいていました。

さて、体験の開始です。作業用のエプロンを着けて準備完了。福田先生の分かりやすい説明で、はがきを二枚作っていきます。どうなるんだろうとすごくドキドキします。

和紙の原料は、コウゾという木の皮と那珂川のすんだ水です。那珂川は和紙の里にも流れてきています。さわってみると、とてもとても冷たい水でした。那須烏山の自然がこの和紙の原料になっているんだと知りました。

福田先生のテンポのよい説明は続きます。回りの子ども大使も、みんなプロの顔をして作業にあ

たっています。

「ここ、注意するところよ。」

「しん重に。」

「手すき」の作業では、道具を使って、和紙を一枚一枚手作りしました。

原料のコウゾから一枚の和紙を作る。形の無いものから一枚の和紙を作る道のりはとても難しかったです。だからこそ、完成したあとの達成感は、口では言えないほど感動しました。

手つかずの自然奥鬼怒温泉郷

野木町立南赤塚小学校 六年 須永 拓海

三月の終わりごろ、家族で奥鬼怒温泉郷に行きました。奥鬼怒温泉は、関東一山奥にあると言われている温泉で四つの宿があり、ぼくが住んでいる関東平野を流れる鬼怒川の源流もこの地域にあります。ぼくがとまる宿は日光国立公園にあるため自家用車では、行くことができません。行く手前は、女夫淵温泉からハイキングコースを一時間二十分くらい歩くそうです。または、送げいバスで二十五分ほどだそうです。ぼくたちは車を日光市のちゅう車場において、そこから宿の送げいバスに乗って一時間半くらい走ります。途中一、二回休けいがあります。走りはじめて一時間くらいは、晴れていて水のような雪が道路のはじめに少し

あるくらいでしたが宿につく手前あたりからバスが山を登っている感じでまどの外を見ていたら雪がいきなりふってきました。しゃ面をよく見ると一メートルくらい積雪していて、道路も雪で白くなっていました。

バスからおりると、とても寒くてすぐ宿に入りました。宿に入って左を見ると熊のはくせいがあるってここらへんは熊も住んでいるくらい山奥なんだなと感じました。そして、中央にいろりがあったのであたたまりました。次に、宿の温泉に入りました。温泉は、白くにごっていて、ちょうどいい温度でした。宿の温泉についての案内には、源泉は無色とう明ですが、湯船にためると次第に白や青白くなり、そのにごり方は、その日のお湯を出す量や気温・気圧によって変化するそうです。

栃木県には、にがり湯の宿の会があり、その言葉で「一期一湯いちごいちゆ」という言葉があります。天気、その時いっしょにお風呂に入る人をあわせると、同じ色、条件のにがり湯には、おそらく二度と入れないだろうという意味なのだそうです。

二日目、朝起きて部屋のしろうじをあけたら目の前に三十センチメートルから二メートル以上の長いつらがたくさん垂れ下がっていて、つららを見たのはこれが初めてで、あまりの多さと大きさにびっくりしました。その後、奥鬼怒温泉のもうひとつの温泉に歩いて行きました。途中道をまちがえて橋を渡ってしまっただけですが、橋から景色をながめると日の光が雪に当たってダイヤモンドのようにキラキラかがやいてとてもきれいでした。着いて温泉に入ると、こっちの温泉はと

う明で少しあつくて白い湯花がういていました。ほんの数百メートル歩いてきただけで全くちがう感じの温泉に入れて得をした気分になりました。今回の旅で栃木県でも北と南でこんなに気候や自然がちがうということを知りました。

手つかずの自然が残る奥鬼怒温泉郷にみなさんもぜひ足を運んでみてください。

作文部門 中学生の部

茶臼岳の絶景と魅力

宇都宮市立星が丘中学校 二年 上崎 貴史

「とちぎの百様」は、栃木県民が大切にしたい、百の魅力ある地域資源だ。ジャンルは様々。僕は、この百様の中から、ぜひ、那須岳の主峰の茶臼岳を紹介したい。

僕は、秋の茶臼岳にロープウェイを利用して家族と一緒に登ったことがある。まだ、小学生だった僕には、山から白く噴煙が上がり、青い空になびく山を見るのが初めてだったので、とても印象的だった。いろいろ調べてみると、那須岳は、日本百名山の一つで、茶臼岳、朝日岳、三本槍岳、南月岳、黒尾谷岳の五つの山を那須五峰と呼んで

いるとのことだが、僕にとっては、初めて登った山ということもあり、那須岳というと茶臼岳という印象がある。

そこで僕が感じる茶臼岳の魅力を三つ紹介したいと思う。

まず、一つ目はなんとと言っても山が生きていることを実感できることだ。茶臼岳では、火山活動が活発で、今も、盛んに噴煙を上げており、その様子を間近に見ることができる。ちよつと、硫黄のにおいがきつかったが、周辺の山肌は熱く、山が生きているんだなあと感じた。

二つ目は、壮大な景色。山頂から見た雄大な景色は、本当に素晴らしい。三六十度の大パノラマで、山のすそ野には、那須高原が広がってる。僕が登った紅葉の時期は、モミジ、ヤマウルシ、ナ

ナカマドで山が鮮やかに色づいていて、紅葉が本当に素晴らしかった。春にはミネザクラ、ゴヨウツツジ、夏はハクサンシヤクナゲ、秋はリンドウなど、季節ごとに山一帯に美しい花が咲くというので、紅葉時期以外の季節に、また登りに行ってみたいと思う。

三つ目は、手軽に楽しめるコースから本格的な登山コースまで、たくさんコースがあることだ。

いろいろなコースがあると、自分にあったコースを選べ、多くの人に茶臼岳を訪れてもらえて茶臼岳など那須五峰の魅力を感じてもらうことができると思う。登山初心者の僕は、ロープウェイを利用したコースで茶臼岳に登ったが、多くの人が茶臼岳に紅葉を見に来ていて、とても人気がある山なんだなあと思った。ロープウェイから見ると景色

は、青い空と白い噴煙、山肌の紅葉と、空中を散歩しているようで、今でも忘れられないくらい、すばらしいものだった。

僕は、栃木県に、茶臼岳のような日本百名山の一つにもなっている山があることを、とても誇りに思う。ぜひ、多くの人に茶臼岳を訪れてもらいたいと思う。

神の宿る山

栃木市立東陽中学校 二年 鈴木 詩

日光のいろは坂を登りきると、目の前には中禅寺湖と雄大な男体山が広がります。

男体山は、中禅寺湖の北岸にそびえ立つ、標高二四八六メートルの山で、栃木県内では白根山に次ぐ高さです。また、山全体が二荒山神社の聖域となっており、はるか昔から、この山全体が神様として崇められてきました。

小学校三年生の時、私は、父と二人でこの男体山に登りました。二荒山神社の中宮祠でお参りを済ませ、登拝料を収めてお守りをいただいたら、鳥居をくぐって登り始めます。この時のことはおぼろげにしか記憶にありませんが、父に聞くと、「ひたすら上りが続くきつい山道だったけど、泣

き言ひとつ言わずに、上りも下りも頑張って歩きました。」

と言っていました。登り始めは雲の中でしたが、七合目を目前に晴れ間が見え始めました。九号目を過ぎて、森林限界を越えたあたりから、眼下に望んだ中禅寺湖の絶景は、今でも目に焼き付いています。

今年の夏、ある方から誘っていただき、母と弟が、男体山登山に出かけました。今までも毎年いろいろな土地の登山を楽しんできた母と弟にとっても、男体山の急な上りはきつかったそうです。しかし、「何合目」という目印を目標に、時々見える絶景に励まされ、見知らぬ登山者の方々と励まし合いながら、登頂に成功しました。頂上を目前にした時、火山岩の赤い山道の向こうに、奥宮

のお社と男体山の神様の像が建っているのが見えた時、疲れが吹き飛んだと弟が言っていました。

下山は足の痛みで、上り以上に大変だったそうですが、あんなに辛い思いをしたのに、なぜかまた行きたいと思ってしまうんだよね、と母が笑っていました。今回は登れなかった一番下の妹も連れて、今度は家族みんなで登れたらいいなと思います。

昨年から、八月十一日は「山の日」という国民の祝日となりました。栃木県は、県面積の半分以上を山や森林が占めます。下野新聞社が募集した「私の好きなとちぎの山」で最も愛されている県内の山に、男体山が選ばれました。「毎日、農道を散歩しながら見上げる男体山から元気をもらっています。」「登山の素晴らしさを教えてもらい

ました。」など、多くの県民から愛される存在のようです。

私の住む栃木市からも、晴れた日にはその雄大な山容がはつきりと望めます。私もあの頂上に立ったんだなあとと思うと、感慨深く、特に、冬の雪化粧をした姿はとても美しく、誇らしく思います。

県内一の霊峰であり、四季の移ろいで様々な姿を見せてくれる男体山。県民の誇りである男体山の素晴らしさを、県外の人にも伝えていけるように、いつまでもその美しさを守っていく手助けができれば、と思います。

四百年の誇り

小山市立間々田中学校 三年 永木 紗弥

「ジャーガマイタ、ジャガマイタ、シーガツヨ
ウカノジャガマイタ」

年に一度、五月五日の子供の日になると、この掛け声が間々田の町のあちらこちらから聞こえてきます。今年もこの新緑の季節に威勢の良い声が聞こえてくると、いつもは静かな町が明るく活気づいていきます。幼い頃、家族に連れられて、ジャガマイタの一番の見所である「水呑みの儀」を見に間々田八幡宮に行きました。人混みの中、まだ小さかった私は、父に肩車してもらい、池の中で豪快な水しぶきを上げて水を飲む蛇をまじまじと見ていました。大きな口、鋭い牙、シダの葉の中にきらりと光る目の迫力は怖いと思うほどでした。

中学生になって、同学年の友達がジャガマイタ

の季節になると自治会で集まり蛇作りをしていることを知りました。蛇体は中学生がリーダーになって、大人たちの指導を受けて子供たちが中心に作っていることは驚きました。私が今まで見ていた勇ましくて巨大な蛇を同学年の友達が作っているのがとても不思議で、伝統を守ることが身近に感じられました。ジャガマイタの当日も、知り合いが蛇を担いで一生懸命、掛け声を掛けている姿を見ると力が湧いてきます。間々田の歴史ある祭りを盛り上げてくれて有り難い気持ちになります。

ジャガマイタは四百年近く続く祭りです。長い歴史があり、これからも守っていききたい祭りです。子供も大人も、担いでいる人も見ている人も勇ましい蛇に魅了され、その素晴らしさを伝えていき

たいと思うと思います。

七つの自治会で作られた七つの蛇は個性豊かで力強さが感じられます。「水呑みの儀」では、激しく水しぶきを上げながら池の水を飲み、池の中で気持ち良さそうに水を浴びていきます。池の周りの青々とした木々から、いくつもの葉がはらはらと舞い散る光景は、蛇が天に高く昇っていく姿を見ているようで、息をのむほど神秘的です。担ぎ手たちの威勢の良い掛け声と、生き生きとした姿が蛇にも魂を宿しているのだと思い、蛇の姿が長い歴史の中で守られてきた喜びや守ってきた人たちの姿を表しているようでした。

担ぎ手と蛇が一体となって、見る人に魅せているのが伝わってきます。たくさんの方がこの祭りに集まるのも、ジャガマイタが素晴らしい祭りだ

からです。パワーで溢れた蛇と担ぎ手から、見ている私まで力が湧いてくるのです。「関東有数の奇祭」としても知られるジャガマイタ。平成二十三年に国の選択無形民俗文化財に指定され、より多くの人に知ってもらえると思い、とても嬉しいことだと感じます。自然豊かな栃木県の間々田だからこそ見られるこの祭りをたくさんの人に見てほしいです。そして、私も間々田のジャガマイタ様を大切にしていきたいです。